

「ソウダ」と「ンダッテ」

—伝聞と引用の間—

蓮沼 昭子 (創価大学文学部)
hasunuma@soka.ac.jp

【要約】

「ンダッテ」は伝聞の「ソウダ」のくだけた話し言葉における代替表現であると説明されることが多いが、終助詞「さ」「わ」や補充疑問文との共起関係において、2つは対照性を示す。本稿では、両者の機能は本質的に異なるという仮定に立ち、対照性が生じる理由をそれぞれの統語・意味的特徴と、文の構造における位置の違いにより説明を試みた。「ソウダ」は伝聞の典型的特徴を有し「提出段階」に位置づけられるのに対し、「ンダッテ」は引用寄りの伝聞の特徴をもち、「表出段階」に位置づけられるものである。2つの対照性は、こうした相違から生じている可能性を指摘した。

1. 問題の所在

伝聞を表す「ッテ」「ンダッテ」は、くだけた話し言葉における伝聞の「ソウダ」¹の代替表現とされ、ほぼ同様の機能をもつと説明されることが多いが、終助詞「さ」「わ」との共起関係では、対照的な振る舞いを示す。「さ」は「ソウダ」とは共起しないのに対し、「ッテ」「ンダッテ」とは自由に共起する。一方、「わ」は「ッテ」「ンダッテ」とは共起しないが、「ソウダ」とは自由に共起する。ちなみに「よ」はいずれとも自由に共起する。以下にこの現象を示す例を挙げる。

- (1) 午後から雨になるそう { *さ / だわ / (だ) よ }。
- (2) 午後から雨になるって { さ / *わ / よ }。
- (3) 午後から雨になるんだって { さ / *わ / よ }。

上記の現象は、「ッテ・ンダッテ」と「ソウダ」が単なる文体の差に留まらず、本質的に異なる機能を有することを示唆するものである。本稿は、以上の問題意識に基づき、伝聞表現とされる「ッテ・ンダッテ」と「ソウダ」の間にある、本質的な相違を明らかにすることを目的とする。「ッテ」は統語的振る舞いや用法において、「ンダッテ」とはかなり異なる性質をもち、問題がいささか錯綜しているため、本稿では、「ソウダ」と「ンダッテ」に的を絞り考察を進めることにしたい。

2. 引用・伝聞をめぐる先行研究

引用と伝聞の相違を考察の射程に入れた先行研究として、中畠 (1992)、森山 (1995)、山崎 (1996) 澤西 (2002)、藤田 (2003)、岩男 (2005)、加藤 (2010)、小西 (2011) などがある。中でも、山崎 (1996)、岩男 (2005)、加藤 (2010) は、「ソウダ」と「ッテ」「ンダッテ」を考察の射程に入れ包括的な考察を行っており、本稿にとっても非常に参考となる研究である。しかし、これらにおいても、「ンダッテ」

¹ 本稿では、レンマ (見出し項目) を片仮名で、その出現形を平仮名で表記する。「ノダ」を例にとり説明すれば、「のだ」「んだ」「のです」「んです」「でございます」などがその出現形としてレンマの「ノダ」に含まれることになる。

と「ソウダ」の相違については、明確な区別は示されていない。本稿は、この2つの形式の伝聞形式としての本質的相違を明らかにするのが目的である。以下では、引用と伝聞に関する先行研究を参考に、「ソウダ」と「ンダッテ」の特質について予備的考察を行っておきたい。

2-1. 引用と伝聞

「引用」の本質的特徴に言及している研究として、加藤(2010)を紹介しておきたい。加藤は、藤田(2000)の研究を継承し、引用を次の(4)のように定義している。そして8種の「引用の基本型」のうち、典型的な引用構文を、(5)a、bのような型をとるものとし、それぞれを「発言引用の基本型」「思考引用の基本型」と呼んでいる。

(4) 引用とは、所与と見なされる言葉を実物提示の形で発話の場に再現することである。

(加藤 2010:19)

(5) 典型的な引用構文

a AはBにQ {と/って} 言う (発言引用の基本型)

b AはQ {と/って} 思う (思考引用の基本型)

(加藤 2010:24)

つまり、加藤(2010)において、「引用」とは、「言う」「思う」のような発言や思考行為を表す動詞と引用標識の「ト/ッテ」が用いられ、所与と見なされる言語表現が実物提示の形で発話の場に再現される場合をその典型としていることが分かる。

「伝聞」については、仁田(2014)を紹介しておく。仁田は、伝聞を(6)のように定義し、[1][2]の特性を有するものとしている。

(6) 伝聞とは：文が担っている命題内容の仕込み方・入手の仕方に関わる様式を表したものの。

[1] 命題内容である事態は第三者からの情報である

[2] 第三者からの情報を聞き手に取り次ぐ、という伝達性を基本的に持っている

伝聞の表現形式としては、「(スル) ソウダ」「ッテ」「(ン) ダッテ」「{トイウ/トノ} コトダ」「トカ」「ラシイ」などが挙げられ、「伝聞」の意味・文法的特徴としては、次の3点が指摘されている。

(7) 「伝聞」の意味・文法的特徴

[1] 対話性を有し、独り言では使わない

[2] 真の意味で話し手の命題内容に対する認識のありようを表してはいない

[3] 1文の命題内容だけでなく、文連続を作用対象とすることができる

(仁田 2014 : 430-431)

上記の加藤(2010)と仁田(2014)の定義づけを総合すれば、「引用」は、発言内容・思考内容が言語で再現された場合を指すのに対し、「伝聞」は、もっぱら言語情報の入手と取り次ぎに関わる様式として捉えられていることが分かる。ただし、伝聞の表現形式には、「ッテ」「(ン) ダッテ」「トイウ/トノコトダ」など、引用の「ト/ッテ」に由来する形式が使用されていることから、両者の峻別は必ずしも明確であるとはいえず、連続性を有していることが示唆される。

2-2. 引用・伝聞を標示する形式の統語・意味的特徴

ここで、中畠(1992)、澤西(2002)を参考に、「引用」と「伝聞」を標示する形式の統語・意味的特徴を整理し、それぞれの違いと連続性を観察しておきたい。中畠と澤西の観察結果を整理すれば以下の表1のようになる。

表1 「引用」と「伝聞」の統語・意味的特徴

	引用	ッテ	ンダッテ	ソウダ
① 元の話者が特定される	○	△	△	△
② 元の話者の心的態度をそのまま伝える	○	○	×	×
③ 命令、疑問、意志、勧誘などに付く	○	○	×	×
④ 疑問化される	○	○	○	×
⑤ 形式自体がタ形となる	○	—	—	×

引用：「Aは（Bに）Pと言っている」という構文をとるもの

○：当該の特徴を有す

×：当該の特徴を有さない

△：当該の特徴が該当する場合としない場合がある

—：当該の特徴は関与しない

○：「引用」のもつ特徴

×：「伝聞」のもつ特徴

表の①～⑤に該当する例を挙げておく。

- ① （先生は）数学の平均点が悪かった {と言っている/って/んだって/そうだ}。
(元の話者の特定)
- ② 田中さん*i*は、僕*i*が悪かった {と言っている/って/*んだって/*そうだ}。
(元の話者の心的態度)
- ③ すぐ来てくれ {と言っている/って/*んだって/*そうだ}。 (命令文)
- ④ 明日は雨が降る {と言っていますか/って/んだって/*そうですか} ? (疑問化)
- ⑤ 明日は雨が降る {と言っていた/*そうだった}。 (タ形)

以上の4形式を、引用と伝聞の統語・意味的特性と関連づけてスケール上に示せば、図1のようになる。



図1 引用と伝聞の連続性

表1のテスト結果に基づきそれぞれの形式を位置づければ、「ト言ッテイル」は引用、「ソウダ」は伝聞の典型的特徴を有するものとして、スケールの両極に位置づけることができる。そして、「ッテ」は引用寄り、「ンダッテ」は伝聞寄りの中間的位置に位置づけることが可能である。

2-3. 「ンダッテ」の形態論

本稿の考察の中心は、「ンダッテ」と「ソウダ」の相違の検討であるが、「ンダッテ」に類似する形式には「ッテ」「ダッテ」があり、形態と機能の対応関係が非常に錯綜している。ここでは、加藤(2010)による形式と用法の整理を参考に、本稿の考察対象の範囲を明らかにしておきたい。

加藤(2010)は、「ッテ」「ダッテ」「ンダッテ」など、伝聞に関連する用法と引用形式の対応関係を以下の表のように整理している。本稿が対象とする「ンダッテ」は最下段の「伝聞情報表示用法」に

該当するものだが、この用法は「ッテ」にも認められるとされている。

表2 伝聞に関連する用法と引用標識を含む形式との対応 (加藤 2010:151 の表 8.1)

	伝言取次ぎ	忠実再現的 伝言取次ぎ	伝聞情報表示
ッテ	○		○
ダッテ・ダト		○	
ンダッテ・ンダト			○

「伝言取次ぎ用法」とは、「ッテ」が使用される場合で、第三者によりなされた発話の内容を、聞き手に意味ある情報として伝達するもので、引用部の発話をした第三者がガ格でマークされ、発言引用の基本型の性質を色濃く残しているものとされる。「～ガ、～ッテ言っている(言っていた) / 言っている(言っていた) か?」にパラフレーズが可能なもので、(8)がそうした例である。

(8) 父：ひなこ、パパのは？

母：<娘に向かって> パパもトマトほしいって。

「忠実再現的伝言取次ぎ用法」とは、「ダッテ・ダト」が使用される場合で、第三者の声音や動作などをまねて忠實的に再現し、当該の情報を注目に値するものとして聞き手に取り次ぐ用法である。非難、反感、侮蔑、喜びなど、話し手の評価的感情を伴うことが多く、(9)がそうした例である。

(9) 山田君ったら、「俺、彼女のこと好きかも」だって。恥ずかし気もなく。(蓮沼の作例)

「伝聞情報表示用法」は、情報源を特に明示する必要のない第三者からの情報を引用するもので、「(私は) ～って聞いた」に言い換え可能で、伝聞の「ソウダ」と同じ機能を果たすとされる。発言の主体をガ格で示すことがない点が「伝言取次ぎ用法」と異なる点だとされる。この用法では、「ッテ」「ンダッテ」が使用されるが、「自分以外の情報源から得た情報」として「自分の立場から聞き手に伝達するという機能」(加藤 2010:148 下線は加藤による)はどちらも同じであるとされている。以下に例を挙げる。

(10) (新聞を見ながら)「明日、晴れるッテ」

(11) (ゲストの夫が、結婚前にゲストの親に挨拶しようとした時の話をしている)

ゲスト：その話をね、一回ね

司会1：うん

ゲスト：あの、こう彼がしようと、この日だと決めた時あったんだって

司会：ほう

(12) あんた (/鈴木先生)、いつイギリスに行くんだって？

(13) 司会2：お父さんいつもXさんに手紙くれるんですって？

ゲスト：そうです。

以上、加藤 (2010) による、「ッテ」「ダッテ・ダト」「ンダッテ・ンダト」の用法の区別をやや詳しく紹介した。ここで本稿の考察との関連性から加藤の分析に対する疑問点を挙げておきたい。その1点目は、「伝聞情報表示用法」に用いられる引用標識として「ッテ」「ンダッテ」が挙げられ、これらが「ソウダ」と同様の機能を果たすものと説明されている点である。2点目は、(12)に対する説明で、「『聞き手(あんた)、或いは、第三者(ここにはいない鈴木先生)が、いつかイギリスに行く』とい

う情報を伝聞情報として受け取っている」状況において、「情報に一部欠損した箇所があるため『ンダッテ』を使用して問うている」(p. 149) という説明の前半部分である。「伝聞情報表示用法」は、「情報源を明示する必要のない第三者からの情報を引用するもの」として特徴づけられているが、(12)では、眼前の聞き手に関する情報と、第三者に関する情報が区別なく扱われている。また、この場合、「いつイギリスに行くそうですか」とは言えず、「ンダッテ」と「ソウダ」の間には明らかな機能の相違が認められる。

本稿では、表2の加藤の分類や、山崎(1996)を参照し、「ッテ」「ンダッテ」「ダッテ」の形態論的な位置について、以下の表3のように捉えておきたい。表では、名詞述語、イ形容詞述語、動詞述語に各形式が続く場合を示しているが、いずれの述語も普通体の無標形の場合を想定している。例文(14)～(17)は、山崎(1996)からの借用である(例文番号は本稿での番号に変更)。

表3 「ッテ」「ンダッテ」「ダッテ」の形態論的位置づけ

	ッテ (直接引用的)	ダッテ (忠実再現的)	ンダッテ (伝聞)
名詞+ダ	「あの男だ」 <u>ッテ</u>	「あの男だ」 <u>だッテ</u> 「あの男だ」 <u>ですッテ</u>	あの男 <u>だッテ</u> あの男 <u>なんだッテ</u> あの男 <u>ですッテ</u> あの男 <u>なんですッテ</u>
イ形容詞	「面白い」 <u>ッテ</u>	「面白い」 <u>だッテ</u> 「面白い」 <u>ですッテ</u>	面白い <u>んだッテ</u> 面白い <u>んですッテ</u>
動詞	「間違えた」 <u>ッテ</u>	「間違えた」 <u>だッテ</u> 「間違えた」 <u>ですッテ</u>	間違えた <u>んだッテ</u> 間違えた <u>んですッテ</u>

- (14) お父さんったら、塩と砂糖を間違えたんだッテ。
 (15) あの映画とっても面白いんですッテ。
 (16) 犯人はあの男だッテ。
 (17) 犯人はあの男なんだッテ。

表3における「ッテ」「ダッテ」の用法は、直接引用に近い用法と捉えられるため、ここに該当する例では引用部を「」で囲み示してある。「ンダッテ」が名詞述語に続く場合は、無標形の「名詞+ダ」に続く場合と「名詞+ナノダ」に続く場合が考えられるため、表ではこれに該当する例を「ンダッテ」の欄に入れている。すなわち、(16)(17)の「あの男だッテ」と「あの男なんだッテ」の両方を「ンダッテ」の例として扱っている。このように扱うのは、(16)(17)を丁寧体に変えた場合に使用される「ですッテ」「んですッテ」が、元の発言の文体ではなく、伝聞内容の伝え手が選択した文体であるということがその最大の根拠である。しかし、(16)(17)の「男だッテ」「男なんだッテ」の間には、微妙な意味の差異が感じられ、この扱い方にはなお検討の余地がある。詳細の検討は今後の課題としたい²。

² 山崎(1996)も同様の問題意識をもっており、本稿の「ンダッテ」に該当する形式を「(ん)だッテ」「(ん)ですッテ」で表記し、どちらの語形を採用するかについては判断を保留している。なお、小西(2011)では、「ッテ」と「んだッテ」を「(んだ)ッテ」の形で一括し、どちらも普通体の文体における「そうだ」の代替表現として機能するものと捉えている。ただし「ッテ」と「んだッテ」の差に関する分析は今後の課題としている。

3. 「ソウダ」と「ンダッテ」の共通点と相違点

3-1. 共通点

「ソウダ」「ンダッテ」に共通する特徴として、共起可能な文類型が平叙文と確認要求の疑問文に限られるという点が挙げられる。すでに指摘したとおり、どちらの形式も、命令、依頼、意志、勧誘といった文類型や、話者の心的態度をそのまま伝えるような表現との共起が不可能である。その理由は、元の発話の場の話し手のその場での心的態度を表す表現は、知識内容としての伝聞情報になり得ないからである（森山 1995）。また「ソウダ」「ンダッテ」が伝える情報内容は、話し手によるダイクシス調整を経ており、間接引用文に近い性質をもつこともこの 2 つに共通する特徴である。以下では、両者がほぼ互換的に使用可能とされる確認要求の疑問文を観察し、その特徴について考察を加えておきたい。

3-1-1. 「ンダッテ」の確認要求用法

まず「ンダッテ」の確認要求用法の例の検討から始めよう。出現形別に例を列挙しておく。

【んだって？】

- (18) 「本社企画部の、朝倉です…。君は、吉武係長と、大学同期だったんだって？」
「ええ、…二人で組んで、いろいろやった時期もあります」そう言って矢作は、うすく笑った。
(小松左京『首都消失』)
- (19) 「お父さんは、亡くなる前、一人で清里の別荘へいったんだって？」
「ええ、八ヶ岳高原にいるという、まぼろしの蝶の写真をとりにいったのよ」
(山浦弘靖『あたしはニネコ片想いだってかまわない』)
- (20) 「八月には、このへんで打ちあげ花火するんだって？」
「そう。うちのベランダから、すっごく大きく見えるの」
(山本文緒『おひさまのブランケット』)

【んだってね】

- (21) 「きみが金子ヒロシくんね。絵がじょうずなんだってね。学校、おもしろい？そう、よかったわ。がんばろうね」
(丘 修三『がんばれ！金子くん』)
- (22) ラジオで言ってたけど、サウジアラビアはガソリンが 1 L = 十二円なんだってね！@@ :
タダみたいな値段だよー……。産油国は強い！
(Yahoo! ブログ)
- (23) 東大に AO 受験はあると聞いたのですが本当ですか？早稲田じゃないんだから。一緒の次元にしないで。でも慶應 SFC もやってるんだってね。優秀な人材が多いわけだ。中央が真似するくらいだから。
(Yahoo! 知恵袋)
- (24) 茨城県は雷ひどかったらしいね。水戸が 1 番やばかったんだってね。わたし水戸にはいなかったからよかったけどでも。稲妻すごかった。
(Yahoo! ブログ)

【んですって？】

- (25) 松たか子ってヘビースモーカーなんですって？ヘビーかどうかは分かりませんがタバコは吸われてますよ。以前、ニュースステーションで映されてましたね。
(Yahoo! 知恵袋)

【んですってねえ】

- (26) 明日から天気悪いんですってねえ。まだ梅雨入りしてなかったんですって！知らなかった
(Yahoo! ブログ)

(18)～(20)は「んだって?」、(21)～(24)は「んだってね」(25)(26)は丁寧体の「んですって?」「んですってねえ」が用いられた例である。(18)～(20)と(25)は、文末の「?」により上昇調のイントネーションを伴うことが読み取れ、これらが確認要求の表現として使用されていることが分かる。(21)～(24)と(26)では、終助詞「ね」「ねえ」が用いられた確認要求表現である。いずれの例も、第三者から話し手が得た情報について、聞き手における情報の保有を前提に、それと自らの知識・情報の一致を確認するものである。ちなみに(18)(21)は、聞き手本人に関する伝聞情報を聞き手に確認している例である。(18)(21)(22)(25)は、「ンダッテ」が名詞・ナ形容詞述語を受ける例であるが、いずれの例でも「ノダ」が前接された「{ナ/ダッタ}ンダッテ」の形が使用されており、名詞・ナ形容詞であっても、確認要求では「ノダ」が伴われることが一般的であることが示唆される³。

3-1-2. 「ソウダ」の確認要求用法

次に、「ソウダ」による確認要求の例を挙げる。最初に丁寧体の「そうですね」、その後に普通体の「そうだね」の例を挙げる。

【そうですね】

- (27) 外国大学との連携によるプログラムに、「ツイニング方式」と呼ばれるのがあるそうですね。今日の朝日の、アジア各国の「留学生戦略」を取り上げた記事の中で、香港やマレーシアでの話が挙がってました。(Yahoo!知恵袋)
- (28) ふつう「お願いが」というような言い方はしない人間ですから“来たな”と思って、「無理難題はだめですよ」って言ったら、「そんなことは、わかってる」と言うんですね。ああいうときの断わり方っていうのがあるんだそうですね、いろいろ言っちゃいけないんですね。「また今度次に」とか「うちのものと相談してから」とか、いろいろ理由を言うのだめらしいんですね。(安野光雅『空想書房』)
- (29) 「きいてみて、はっきりしたわけです。その子は、深沢さん、あなたのお子さんのユウタクんだということが。お宅のユウタクくんは、勇ましいに太い、勇太と書くんだそうですね」
深沢勝幸は力なくうなずいた (清水義範『茶色い部屋の謎』)
- (30) 今年の東京のソメイヨシノの開花予想は3月二十五日だそうですね。私の住んでいる埼玉は3月二十七日だそうです。と言うことは私の住んでいる狭山は3月二十六日頃だと思います。(Yahoo!ブログ)
- (31) [肉じゃがについて]
祖母が関西の人だったのでそうだったのかも知れませんが東日本では豚肉なのだそうですね。なので肉は牛肉なのですが更に白滝を入れます。(Yahoo!ブログ)
- (32) でも、あれですね、この前 日経の土曜版に載ってましたが、手編みのセーターがいちばん暖かいんだそうですね。既製品のカシミアかなんかのセーターのほうがずっとあったかい感じがしますけどね。(Yahoo!ブログ)

【そうだね】

³ ただし、「名詞+ダッテ?」でも伝聞情報の確認を表すことは可能で、以下がそうした例である。

(i) 「あんた、お兄さんの弟さんだって?」(藤沢周平『少年の眼』)
ちなみに「名詞+ダッテ?」は、相手の発言を受け、その意図や使用された言葉の意味などを問う、問い返しの疑問文で使用される場合が圧倒的に多く、「何だって?」はそうした意図が疑問語で表されている場合である。

(33) 「あんたは、うでがいいそうだね。まじめにはたらくなら、すみこみでやとってあげよう。」
家具工場の主人がいった。「あのう、じつは、犬もいるんですが。かっちゃあいけませんか。」

(那須正幹『どろぼうトラ吉とどろぼう犬クロ』)

(34) 「あなたは、結婚しているそうだね」「ええ、まだ一年ですけど」「新婚というわけだ。ご主人は、何をされているんです？」

(北沢拓也『愛宴の人妻』)

「ソウダネ」は「ンダッテ?」「ンダッテネ」と互換性をもつことが従来から指摘されているが、文体の差を捨象すれば、それが正しいことが上の例でも確認可能である。ただし、詳細に検討すると相違も認められる。ここでは、両者の相違点を2点ほど指摘しておこう。

まず、「ソウダ」では、終助詞「ね」の付加が必須であるという点が挙げられる。「ソウダ」は疑問の上昇調の音調をとらないため、確認の意図の表示は「ね」の付加によってはじめて可能となるからである。相違の2点目は、「ソウダ」は「ノ」の前接を必須の条件とはしないという点である。「ソウダ」は直接、述語の無標形に付く場合と、「ノ」に後続する場合の両方があり、(27)(28)はこのことを端的に示す例である⁴。一方、「ンダッテ」は名詞・ナ形容詞述語の場合を除き、必ず「ノ」の前接を必要とする。この点を動詞文が使用された(27)の例で観察しておこう。以下の(27')では、「ノ」を伴わない「ンダッテ」の(27' c)のみが容認不可能であることから、上記の事実を確認することができる。

- (27') a 「ツイニング方式」と呼ばれるのがあるそうですね。
b 「ツイニング方式」と呼ばれるのがあるんだそうですね。
c * 「ツイニング方式」と呼ばれるのがあるですってね。
d 「ツイニング方式」と呼ばれるのがあるんですってね。

3-2. 相違点

「ソウダ」と「ンダッテ」の統語・意味的な相違点については、すでに表1で大まかな違いを示しておいたが、そこで言及していないいくつかの相違点について補足しておきたい。

まず、「ソウダ」は、主節末だけでなく従属節でも使用可能なもので、「そうで」「そうでして」「そうごさいますて」のようなテ形や、「ガ」「ケレド」「カラ」「ノデ」「シ」などの接続助詞を伴った形で使用可能である。また、「ノダソウダ」「ソウナノダ」の形で「ノダ」を前後の一方に伴う形でも使用され、まれではあるが「ノダソウナノダ」のように、前後両方に「ノダ」を伴う場合もある。また、「結婚したそうじゃないか」のように、「デハナイカ」の後続も可能である。一方、「ンダッテ」は「さ」「よ」「ね」「な」などの終助詞や、終助詞化した「ば」の付加は可能であるが、それ自体が活用することはなく、主文末でのみ使用されるものである。つまり、「ソウダ」は事態について記述する側面をその機能の中に認めることができるのに対し、「ンダッテ」は、文末において話し手の情報把握のあり方や、聞き手に向けての伝達態度の標示をその機能の中核に有しているものといえる。この点で、文の構造におけるそれぞれの位置や機能は大きく異なる。

すでに山崎(1995)で指摘されていることだが、「ソウダ」と「ンダッテ」の最大の相違点は、補充疑問文(疑問語疑問文)における共起の対照性である。「ソウダ」は補充疑問文との共起が不可能なのに対し、「ンダッテ」ではそれが可能である。例文の観察を通しこの点を観察しておきたい。補充疑問文を「ンダッテ」が受ける4例を挙げる。

⁴ 「ソウダ」の前に付加された「ノダ」は、元の発言のものではなく、伝聞情報の伝達者の情報把握のあり方を表していると捉えるのが適切だと思われるが、その使用不使用を決定づける条件については、未検討である。

- (35) 「こんにちは。」と、しらが頭を高く結び上げたおばあさんが王さまをふりあおいで、「駅長さんかね。ホームで落とし物をしたですよ。ちょっくらしらべてもらえますかねえ。」
 「なにをおとしたんだって？」 「入れ歯だよ。三日まえのことだけど、やっぱりないと不便だよ。」 (福永令三『クレヨン王国王さまのへんな足』)
- (36) 私はミーア、こちらはムーンおじさんよ。メリーウイドウに案内してもらって、動物園からいなくなったかものはしさんをさがしに行くところなの。「なに？ だれをさがしに行くんだって？」 ソルジャーは、いかにもうさんくさそうな表情である。
 (菊地亮子『ミーアとマンマンデーの森』)
- (37) 気のない声色を作って男は言う。振り向いて、女の返事を待つ。いつ逢ったんだ？ しかし待ち切れずに、そう訊いてしまう。「月曜日…じゃなくて、火曜だったかしら」 日曜は、どうしたんだって？ 「日曜って？」 遊園地さ。一緒に行く約束だったじゃないか。どうしてすっぽかしたのか… (原田宗典『優しくって少しばか』)
- (38) 高橋：これは大変、もう、えー、徳川夢声さんには脅かされますしねー。
 黒柳：徳川夢声さんのおっしゃったことがまあ、とても面白い。徳川夢声さん、何とおっしゃったんですって？
 高橋：あなたはね、圭三さん、失業しますよって、こう言われた。あの調子、分かるでしょ。
 (「徹子の部屋」山崎 1995 の例)

「ソウダ」は、上のいずれの例でも使用不可能であるが、このことを(36)の「んだって」を「そうですか」に置き換えた例で示そう。(36')において「そうですか」は容認不可能だが、上の他の例文でも、同様のことがいえる。

(36') 「なに？ *だれをさがしに行くそうですか？」⁵

補充疑問文との共起関係において、「ンダッテ」と「ソウダ」の間には、なぜこうした相違が生じるのだろうか。この点を考察するに当たっては、その前に(35)～(38)の補充疑問文としての用法の違いを指摘しておかなければならない。

まず、(35)(36)は、相手の発言がよく聞き取れなかった場合や発言意図が不明な場合の、問い返しの疑問文の例である。相手の発言の一部が繰り返されている点にこのことが窺える。(37)は、発言態度が曖昧な相手に、その明瞭化を促すような発話である。つまり、(35)～(37)は、いずれも眼前の聞き手に直接、質問を投げかける場合であり、ここでの「ンダッテ」を伝聞用法と捉えるのは適切とはいえない。

最後の(38)は、伝聞用法の「ンダッテ」が補充疑問文を受けている場合と考えることが可能な例である。すなわち、第三者(徳川夢声氏)の発言をかつて直接に聞いた経験をもつ高橋圭三氏に、「徳川氏は何と saying いたか」とその内容を問う場合であり、第三者の発言を取り次ぎ聞き手に伝達する「伝聞」の働きが、ここではその発言内容を問う補充疑問文によって示されているケースとして捉えることが可能である。

以上、(35)～(38)の「ンダッテ」には、大きく分けて3種類の異なる用法が認められたわけであるが、「ンダッテ」が補充疑問文を受けることができる理由は、いずれの例の場合も、同様の理由によっ

⁵ (36')では、「んだって」全体を「そうですか」に書き換えているが、「んだ」を残し「だれをさがしに行くんだそうですか」に変えても、不自然さは変わらない。なお、「ソウダ」は丁寧体で使用される度合いが高いとされる(小西 2011)ため、丁寧体で書き換えてある。

て説明可能である。すなわち、これらの例は「何・だれ・なぜ・どう etc. {ダ/スル/シタ}ト言ウ（言ッた）ノカ」というような形で、「ト言ウ」が補充疑問文を引用する構造をもつ文として分析可能なもので、「ッテ」の中に「発言引用の基本型」を構成する引用動詞の「と言う」の意味が生きているケースと捉えることが可能である⁶。

一方、「ソウダ」は、第三者からの言語情報の取り次ぎという「伝聞」に特化した機能を担う形式であり、所与と見なされる言葉を発話の場に再現する「引用」の機能は本来的に有していないものである。「ソウダ」が補充疑問文を受けることができないのはそのためである。

4. 考察

3節までの観察結果に対し手短かに考察を加えておきたい。

最初に、引用、伝聞形式と文の種類、終助詞の共起関係を以下の表4に整理して示す。これは表1のテスト結果を補足するものである。表の下にテストに使用している例文を挙げておく。

表4 「引用」と「伝聞」形式と文の種類、終助詞の共起関係

	ッテ言ッテイタ	ッテ	ンダッテ	ソウダ
① 補充疑問文	○	○	○	×
② 確認要求	○	○	○	○
③ 「よ」の後接	○	○	○	○
④ 「さ」の後接	??	○	○	×
⑤ 「わ」の後接	○	×	×	○

- ① 彼、いつ来る {ッテ言ッテた/ッテ/んだッテ/*そうですか} ?
- ② 彼、今日来る {ッテ言ッテた/ッテ/んだッテ/そう(だ)} ね。
- ③ 彼、今日来る {ッテ言ッテた/ッテ/んだッテ/そう(だ)} よ。
- ④ 彼、今日来る {??ッテ言ッテた/ッテ/んだッテ/*そう} さ。
- ⑤ 彼、今日来る {ッテ言ッテた/*ッテ/*んだッテ/そうだ} わ。

表4を観察する限りでは、「ンダッテ」と「ソウダ」の間に見られる大きな相違点は、補充疑問文、および終助詞「さ」「わ」との共起関係における対照性である。補充疑問文との共起関係に見られる対照性については、3-2節で考察済みなので、ここでは、「さ」「わ」との共起において「ンダッテ」「ソウダ」が対照性を示す理由について考えておきたい。これは1節で、最初の問題提起を行った際に指摘した現象である。

⁶ 補充疑問文を「ンダッテ」が受ける場合には多様な用法があり、例えば次のようなものがその例である。

(i) なんで昌さんの二百勝、更新しなかったんだッテ?それは風邪をひいたからデース!.....

(Yahoo!ブログ)

(ii) 一体何しに横浜にきたのだッテ言う突っ込みは受け付けたくないです

(Yahoo!ブログ)

(iii) 「盗んだんじゃないよっ、もらったんだ」「だから、だれにもらったんだッテ聞いているんだ」

(実著者不明『林家木久蔵の子ども落語』)

それぞれ「Xかと聞かれればYと答える」「Xノダトイウ名詞」「Xノダト聞イテイルノダ」のような構造をもち、「課題と解説」「連体修飾」「問い返し」などを表すが、いずれも伝聞用法とは区別されるものである。

以下は、上記の現象を表す具体例である。

(39) 今度オープンした店、すごくおいしい {んだって/*そう} さ。

(40) 今度オープンした店、すごくおいしい {*んだって/そうだ} わ。

まず、「んだって」と「さ」が共起する(39)の例から考察を始めることにしよう。説明の便宜上、終助詞や伝聞標識を除いた伝聞情報をPで表すことにする。

「んだって」は、伝達態度を表す終助詞相当の複合辞で、伝聞情報Pを既定的な情報と捉える話し手の情報把握のあり方を標示すると同時に、聞き手に向けてその情報の提示を行う話し手の伝達態度を表す。「Pさ」は、既有知識や一般知識など、内部知識を点検したうえで、話し手が構成したPの伝達を担うもので、「対話的性質」を強くもつ(蓮沼 2015)。「Pんだってさ」は、「んだって」と「さ」の機能が相乗的に作用する場合と考えられ、内部知識の点検を介し既定的なものとして話し手に把握された伝聞情報Pを、聞き手に向けて発信する話し手の伝達態度を明示する機能をもつ。「んだって」と「さ」は強い親和性をもつ文末形式であり、くだけたスタイルの談話において、2つは連動する形で使用され、それぞれの機能を相乗的に作用させながら伝達効果を発揮していることが使用実態の調査からも確認可能である⁷。

では、(40)において、「んだって」と「わ」が共起しない理由はどのように説明可能であろうか。本稿では、「Pわ」と「Pんだって」におけるPの意味特性の衝突という点からその理由が説明できるのではないかと考えている。

「わ」は、発話の場で新たに実践された話し手の判断・評価や、新たに生じた内的感覚や意志の表明に用いられるもので、平叙文のみに付加し、それを表出的な文のタイプに変える働きをもつ。聞き手に対する伝え方を積極的に表すという性質は希薄で「非対話的」な特性をもつ。つまり、「わ」が付加されるPは、話し手の知覚・判断など、個人的な認識に基づき発話の場で話し手が構成したものであるという意味特性をもつ。一方、「んだって」は、外部からもたらされた情報Pに対する話し手の把握と聞き手に向けての提示を本務とするもので、これは発話の場で生成された話し手の個人的な認識とは対極的ともいえるような意味特性をもつ。「んだって」と「わ」が共起しないのは、「Pんだって」と「Pわ」におけるPの意味特性が親和性をもたず、その衝突によって自動的にブロックされるケースとして説明可能ではないかと考える(形態論的な制約もある)。

「ソウダ」が「さ」と共起不可能で、「わ」と共起可能な理由は、次のように説明できる。すなわち、「ソウダ」は、第三者からもたらされた言語情報Pに対する話し手の情報把握のあり方、すなわち「どのようなことを聞いて知っているか」(宮崎 2002:161)を伝えることを基本的な機能とするもので、その使用に話し手における内部知識の点検という心的処理は関与しない。「さ」と「ソウダ」が共起しないのは、「さ」が要求する心的処理の過程を「ソウダ」はもたないからである。一方、「わ」は発話の場での個人的認識の表出を本務とするもので、内部知識の点検という心的処理の介入を必要としない。「ソウダ」と「わ」の共起に制約がないのはそのためである。

5. まとめ

本稿の観察結果を箇条書と表5にまとめておく。表5は「ソウダ」「んだって」の文構造における位置に対する、現段階での筆者の見取り図を掲げたもので、詳しい考察は別の機会に譲りたい。

⁷ 蓮沼(2015)では、BCCWJを用い「ソウダ」「んだって」と「さ」の共起状況の調査を行った。その結果、「んだって」と「さ」が共起する例は99例あったのに対し、「ソウダ」と共起する例は皆無であった。

1. 統語・意味的特徴において、「ソウダ」は伝聞の典型的特徴をもつ。「ッテ」「ンダッテ」は「伝聞」と「引用」の中間に位置する特徴をもち、「ッテ」は引用寄り、「ンダッテ」は、伝聞寄りの特徴をもつ。
2. 「ソウダ」は、言語情報を証拠とする話し手の認識のあり方を標示するもので、認識的モダリティのサブカテゴリーである証拠性モダリティに属す。話し手の発話時の認識を表すため、疑問文やタ形では使用されない。
3. 「ンダッテ」は、引用構文から終助詞相当の複合辞に発達した文末形式である。外部から得た言語情報を既定的な情報として把握し、それを価値のある情報として聞き手に提示・伝達する話し手の態度を標示する。この場合、情報の「把握・提示」の機能は、「ノダ」に由来すると考えられる。
4. 「ンダッテ」は、文の階層構造において、南の「表出段階」(Dの段階)に位置づけられる。命題に対する話し手の認識のあり方と交渉をもつが、それとは独立に、話し手の保有する伝聞情報について、その内容の一致を聞き手に確認する「確認要求の疑問文」、および伝聞情報の中の欠落した情報について補充を求める「補充疑問文」の両方で使用可能である。「ソウダ」は、確認要求の疑問文でのみ使用可能で、補充疑問文では使用不可能である。
5. 「ソウダ」が伝聞標示という固定した用法を持つのに対し、「ンダッテ」は、主張や驚きの表明など、伝聞以外の用法も有している⁸。以上を総合し、「ンダッテ」を「ソウダ」の代替表現とする従来の見方は、再検討する必要がある⁹。

表5 文の階層構造・概念レベルにおける「ッテ」「ンダッテ」「ソウダ」の位置づけ

南(1974)	描叙段階 (A)	判断段階 (B)	提出段階 (C)	表出段階 (D)
益岡(1997)	事態命名のレベル	現象のレベル	判断のレベル	表現・伝達のレベル
岩男(2005)			〈伝聞的用法〉の 「ッテ」「ンダッテ」	〈押し付け用法〉の 「ッテ」「ンダッテ」
本稿			伝聞の「ソウダ」	伝聞の「ッテ」「ンダッテ」

引用・伝聞の研究は、様々なジャンルの言語表現を対象とし、その奥行きも非常に深い分野である。その入り口に立ったばかりの筆者には、学ぶべき知識や課題も多い。今後も、先行研究の精査と研究の理論的枠組みの探究を続け、本稿の残る課題の解明を目指したいと思っている。

⁸ 岩男(2005)は「ンダッテ」に2種類の用法を区別し、それぞれ〈押し付け用法〉〈伝聞的用法〉と呼んでいる。〈伝聞的用法〉は、本稿が対象とする用法に該当するが、〈押し付け用法〉は、話し手の主張を表す用法で、次がそうした例である。

(i) マコト「僕の時計がなくなってる」
友人 「そりゃ教室だぜ、お前忘れてンダッテ」
マコト「違うよ、確かにおいといたんだ」

岩男によれば、2種類の「ンダッテ」は、次のような異なる構造をもつものとされている(岩男2005:97)。
〈伝聞的用法〉 引用文+「ンダッテ」 例「講義は月曜日から始まるンダッテ」(「ッテ」を高く発音)
〈押し付け用法〉「～ンダ」という引用文+「ッテ」 例「お前忘れてんだッテ」(「ダ」を高く発音)

⁹ 海外に住む日本人妻を紹介するテレビ番組で、取材を行ったレポーターが語る場面で「お部屋が25部屋もあるんですって!」のような発話をよく耳にする。この場合の「んですって」は「そうです」では言い換えにくい。現地で日本人妻本人から聞いた情報を驚きのニュアンスを込めて報告するような場合だが、こうした用法を「伝聞」と呼ぶのが適切かどうかを含め、自然談話の音声データを使った調査で、さらに検討する必要がある。

参考文献

- 岩男考哲(2003)「引用文の性質から見た発話『～ッテ。』について」『日本語文法』3(2):146-162 日本語文法学会
- 岩男考哲(2005)『日本語引用形式の諸相—「ッテ」を中心に—』大阪大学言語文化研究科博士論文
- 加藤陽子(2010)『話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版
- 鎌田 修(1988)「日本語の伝達表現」『日本語学』7(9):59-72 明治書院
- 許 夏玲(1999)「文末の『って』の意味と談話機能」『日本語教育』101:81-90 日本語教育学会
- 小西 円(2011)「使用傾向を記述する—伝聞の[ソウダ]を例に—」森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』159-181 ひつじ書房
- 三枝令子(1997)『「って」の体系』『言語文化』34:21-38 一橋大学
- 澤西稔子(2002)「伝聞における判断性、及びその特性:『そうだ』『らしい』『とのことだ』『ということだ』『と聞く』の談話表現を中心に」『日本語・日本文化』28:28-49 大阪大学
- 砂川有里子(2014)「話法」日本語文法学会編『日本語文法事典』689-690 大修館書店
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中島孝幸(1992)「不確かな伝達—ソウダとラシイ—」『三重大学日本語日本文学』3:15-24
- 仁田義雄(2014)「伝聞¹」日本語文法学会編『日本語文法事典』430-431 大修館書店
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野田春美(1997)『「の(だ)」の機能』くろしお出版
- 野村真一(1999)『「Sッテ」文の分析』引用標識「ッテ」を用いたストラテジー『金沢大学語学・文学研究』27:1-11
- 野村真一(2000)『「Sッテ」文の伝聞用法の分析』『金沢大学語学・文学研究』28:1-10
- 蓮沼昭子(2015)「終助詞『さ』の本質的機能—認識的モダリティとの共起関係に着目して—」『日本語日本文学』25:1-27 創価大学日本語日本文学会
- 藤田保幸(2000)『国語引用構文の研究』和泉書院
- 藤田保幸(2003)「伝聞研究のこれまでとこれから」『言語』32(7):22-28 大修館書店
- 藤田保幸(2014)「引用」日本語文法学会編『日本語文法事典』35-36 大修館書店
- 堀口純子(1995)「会話における『ッテ』による終結について」『日本語教育』85:12-2 日本語教育学会
- 益岡隆志(1997)『複文』くろしお出版
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 宮崎和人(2002)「第4章 認識のモダリティ」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書4 モダリティ』121-171 くろしお出版
- 森山卓郎(1995)『「伝聞」考』『京都教育大学国文学会誌』26:25-36
- 山崎 誠(1996)「引用・伝聞の『って』の用法」『国立国語研究所研究報告集』17:1-22 秀英出版

調査資料出典

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」通常版(BCCWJ-NT)

<http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/index.html>